

27E-pm06

指導薬剤師と教員が考える改訂コアカリ実務実習における薬局・病院・大学の連携の在り方

○山浦 克典^{1,2}, 鈴木 小夜¹, 小林 典子^{1,2}, 高木 彰紀¹, 岩田 紘樹^{1,2}, 青森 達^{1,3}, 藤本和子¹, 木津 純子⁴, 中村 智徳¹(¹慶應大薬連携センター, ²慶應大薬局, ³慶應大病院薬⁴慶應大薬)

【目的】平成 31 年度より改訂モデル・コアカリキュラム（改訂コアカリ）に準拠した実務実習が実施されるが、重要な改訂ポイントの一つに薬局・病院・大学間の連携が挙げられる。本研究では、効果的な連携の在り方について実務者レベルで考え、実行可能な連携案の提案を目的に、実務者によるワークショップを開催した。

【方法】慶應義塾大学薬学部実習生の受入れ実績のある薬局・病院の指導薬剤師および本学教員合計 45 人によりワールドカフェ形式で、改訂コアカリに準拠した実務実習のための効果的な連携案の抽出を行った。第 1 および第 2 ラウンドは 10 テーブルで各 20 分間、第 3 ラウンドは「改訂コアカリに準拠した実務実習における薬局・病院・大学の連携に目を向けたアイデアの抽出」を 5 テーブルにて 90 分間ディスカッションした。終了時にワークショップに対する無記名評価を実施した。

【結果・考察】本ワークショップの成果物は、以下 3 つの提案に集約できた。

- ① 連携交流会の実施：薬局・病院・大学間の情報共有・交換を目的とする交流会を引継ぎ期間に開催する。6 割のテーブルから同様の提案がされた。
- ② 代表的 8 疾患連絡ツール：8 疾患について実習開始前に情報共有し、漏れなく実習するための三者連携ツールが必要である。同様の提案は 6 割あった。
- ③ 学生情報の共有：施設では学生の性格・性質に関する情報は時間をかけて独自に把握するため、アドバイザー教員あるいは講座教員が学生情報を積極的に提供することが望ましい。同様の提案は 8 割のテーブルから挙がった。

ワークショップに対し平均 90 点の高評価を得た。自由記述の 50%は他施設・他職種との情報交換を高く評価していた。今後、出された提案に関するトライアルを実施し、実現性と有用性を検証し、薬局・病院・大学間の効果的な連携を目指す。